

# ドイツ研修旅行アンケートに見る学生像の変遷 (1998~2008)

羽 白 洋 (大学教育開発センター)

## はじめに

九州大学の根本道也教授<sup>1)</sup>が中心となって1983年から実施されてきた、およそ1ヶ月ドイツに滞在する研修旅行<sup>2)</sup>がある。この企画は2008年に25回<sup>3)</sup>を迎え、現在2009年2月末の出発を目指して参加学生の訓練中<sup>4)</sup>である。2009年の第26回には香川大学からも2名参加を予定している。この研修旅行は、ミュンヘン大学での語学講習、ホームステイ<sup>5)</sup>、自主研修旅行<sup>6)</sup>の3本柱で成り立っている。筆者はこれまでこの研修旅行を6度引率した経験があるが、そのうち第15回(1998年)参加学生に帰国後あるアンケートを、そしてそれからちょうど10年後の第25回(2008年)参加学生にも同じ内容のアンケート<sup>7)</sup>を実施した。様々な大学・専攻・学年で構成されているが、ドイツ語圏への興味・関心という点で一致している参加学生達のここ10年の変遷を、二つのアンケート結果を対比し分析する。

## 1. 参加学生の構成<sup>8)</sup>

### 第15回 (73名参加)

大学別：九州大28名、福岡女子大13名、鹿児島大14名、福岡大7名、福岡教育大5名、  
佐賀大4名、九州産業大・医療短大各1名

学年別：2年40名(55%)、1年22名(30%)、3年11名(15%)

### 第25回 (42名参加)

大学別：福岡教育大11名、福岡女子大9名、九州大7名、佐賀大6名、宮崎大5名、  
鹿児島大2名、福岡大・香川大各1名

学年別：2年26名(62%)、1年10名(23%)、3年6名(14%)

参加学生数、それ以前に応募学生数が大幅に減少した要因は、10年前に比べ、大学間の交流協定等でヨーロッパへ学生が比較的簡単に行ける制度<sup>9)</sup>が各大学にできてきたこと、選抜試験・毎月の講習会のような厳しい訓練を忌避する学生が増えたことが挙げられる。

またこの研修旅行以前の海外旅行経験の有無を問うた項目では、この10年間の「海外旅行」の重みの違いが明白に読み取れる。すなわち、第15回では「海外旅行経験無し」と答えた学生が75%だったのに対し、第25回では逆に68%の学生が高校での修学旅行等で海外旅行を経験している。ただしその行き先は韓国・中国・香港・オーストラリア・ニュージーランド等比較的日本の近隣諸国が多い<sup>10)</sup>。またヨーロッパであっても単なる観光旅行ではない語学研修では英国に限られ、オーストラリア・ニュージーランドと同じく英語圏への語学研修とみられる。ドイツ・スイス・オーストリア等「ドイツ語圏での滞在経験」は、第15回生で99%、第25回生で90%が無しと答えているところから、ヨーロ

パ、特に中欧はまだまだ遠い存在といえよう。

学年別では両回での相違はさほど見られない。両回とも比較的時間的余裕のある2年生の参加割合が高い。加えてそのもう一つの理由は、2年生は大学の授業でドイツ語の基礎をほぼ終えており、選抜試験で余裕をもって得点しているからである。この点から見れば、大学でのドイツ語授業がまだ進行中であるはずの1年生が、両回とも頑張っているのは賞賛に値する。

## 2. 研修旅行参加以前のドイツ語学習歴

### 第15回

- ① いつから? : 現在籍大学入学後開始97%
- ② どの程度? : 文法を一通り終えていた58% 文法はまだ途中だった31%  
明確な文法としての授業は未受講11%
- ③ 何が難しい? : 文法 (26%), 聞き取り (21%), 作文 (19%)・単語の記憶 (19%), 発音 (16%)
- ④ その難しさの原因は? : 学生個人にある51%, ドイツ語本来のもの39%,  
先生の教え方にある9%

### 第25回

- ① いつから? : 現在籍大学入学後開始100%
- ② どの程度? : 文法はまだ途中だった60% 文法を一通り終えていた35%  
明確な文法としての授業は未受講5%
- ③ 何が難しい? : 聞き取り (27%), 文法 (19%), 作文 (18%)・単語の記憶 (18%), 発音 (17%)
- ④ その難しさの原因は? : 学生個人にある60%, ドイツ語本来のもの40%,  
先生の教え方にある0%

①「ドイツ語をいつから学び始めたか」は両回とも「大学へ入ってから」が大勢<sup>11)</sup>を占めている。従ってスタートラインは同一のはずだが、②「研修旅行出発前時点での文法学習進度」を問うと、両回で大差が見られる。10年前のドイツ語教育は、大学間での差は無論存在したが、世の趨勢は文法中心の教育であり、1年間で一通り文法を教え終えてしまう大学もあった。このことは「明確な文法としての授業は未受講」者が11%もあるのと矛盾しているように見える。しかしながらこの11%の回答者の回答を精査すると、ネイティブの教師による授業が主で、文法書を教科書とは別に自習するよう求められているもの<sup>12)</sup>であった。

③「ドイツ語の何が難しいか」の問いで、「文法」を最も難しいとした15回生に対し、「聞き取り」のほうが「文法」より「作文」「単語の記憶」と同程度に難しいとしている25回生の回答に、この10年間でのドイツ語教育の力点の違いが見て取れる。現在どこの大学でも、という反発もくろむだろうが、全国ほぼ全ての大学でのドイツ語教育では、「ドイツ語を正確に読みこなす文法力」よりもいわゆる「コミュニケーション能力養成」に重点が置かれている。ほぼ全ての教科書にはCDが付録として付き、ドイツ語教師はCDプレーヤーを教室へ持ち込み授業を行っている。ネイティブの発音を元来補助的に聞かせて内容理解の助けとしようとしていたはずなのに、その音声を「聞き取る」ことに

辟易している学生の姿が見られる。

教師が「難しい」文法を正面きって教えなくなった結果、またCD・DVD等の教材に頼る結果、④「ドイツ語の難しさの原因」の問いに、「先生の教え方にその原因がある」と答える学生がいなくなったのかも知れない。また60%の学生が、「自分の能力のなさ」をその原因としているのは、素直と言うべきか、潜在自己能力の過大評価と言うべきか。

### 3. 研修旅行中のドイツ語

#### 第15回

- ① 何が難しかった? : 単語力 (38%), 聞き取り (29%), 作文 (19%), 発音 (14%)
- ② 現地の人との使用言語は? : ドイツ語中心+英語48%, ドイツ語中心+ジェスチャー34%,  
ドイツ語のみ15%, 英語中心+ドイツ語 3%
- ③ ホームステイ先の家族 (大人) があなたに使った代名詞は? :  
du・69%, 最初Sieのちにdu・19%, 終始Sie・6%, 不明 6%

#### 第25回

- ① 何が難しかった? : 聞き取り (35%), 単語力 (33%), 発音 (19%), 作文 (13%)
- ② 現地の人との使用言語は? : ドイツ語中心+英語46%, ドイツ語中心+ジェスチャー32%,  
ドイツ語のみ17%, 英語中心+ドイツ語 5%
- ③ ホームステイ先の家族 (大人) があなたに使った代名詞は? :  
du・85%, 終始Sie・8%, 最初Sieのちにdu・5%, 不明 3%

2. で研修旅行参加以前 (日本での大学授業中) の「ドイツ語の何が難しいか」の程度を問うた。では研修旅行中 (在独中) はどうであったかを問うのが①である。難しかったもの・困難を感じたものとして両回とも上位に挙げられているのが「単語力」及び「聞き取り」である。この両者の難しさの順位は、一見すると両回でさほどの相違は見られないようであるが、「聞き取り」が僅かに2ポイント多い25回生の回答からは、『自分の単語力の無さにも困ったが、あれだけ聞き取りの練習をやったのにやはり聞き取りは難しい』との声が裏に潜んでいる。15回生は、『聞き取りよりもとにかく単語力』との思いが強く見られる。

現地の人との意思疎通手段を問うた②の回答では、15回生25回生で数字上の差は見られない。ただし両回の学年別構成を考慮に入れると、25回生より2年生が少なく1年生の多い15回生の、『ドイツ語を使おう』との意欲が25回生より強かったと言えるかも知れない。

ホームステイ先の人達に、学生がどのように受け入れられ扱われたのかを探ろうとしたのが③である。その手掛かりとして、親しい間柄・家族間で使われる2人称代名詞「du」と一般的に使われる「Sie」のどちらが使われたかを問うた。数字だけを比較すると、15回生の方が最初はややよそよそしく扱われたように見える。ただしホームステイ家族は同一ではない<sup>13)</sup>し、また継続的に10年前から毎年受け入れている家族においては学生の扱い方に慣れが生じている場合もあるので、軽々に言い切ることはできない。

## 4. 帰国後のドイツ語学習

第15回 継続学習：していない26%

している74%：大学の授業のみ30% 授業+自習70%

第25回 継続学習：していない30%

している70%：大学の授業のみ43% 授業+自習57%

両回とも「ドイツ語の学習を続けていない者」の割合はほぼ同じであった。その理由<sup>14)</sup>もほぼ同じで「ドイツ語を勉強したいがほかのこと（専門授業，就職活動等）で忙しい」であった。

「ドイツ語の学習を続けている者」の内訳では，10年前と現在との学生の相違が顔を覗かせている。ドイツ語を大学の授業でしか学習していない学生がやや増えている。ドイツ語より魅力のあるものがほかにあるのか，そもそも余力がなくなっているのかは判然としない。加えて授業以外に自分でドイツ語を勉強している学生の割合は減少している。この13ポイントの差は，必修・選択を問わず大学の授業に加えて自ら学習<sup>15)</sup>する学生の「学習意欲の差」であろうし，悲観的に見れば「ドイツ語の魅力の褪色」と言えよう。

## おわりに

そもそもこのアンケートは，ドイツ語授業改善の一助になればとの願いで実施したものであった。従ってその重点は，研修旅行前後及び旅行中のドイツ語文法項目の使用頻度・重要度を学生がどの程度認識しているかに置かれていた。実際にドイツ語が使われている土地へ滞在し，研修をしてきた学生達の生の声から大学での授業改善を目指したもの<sup>15)</sup>であった。この報告ではドイツ語そのものではなく，学生の変遷に視点を置いてアンケート結果を見直したものである。「最近の学生は…」と言うより先に，学生そのものの変化よりも，彼らを取り巻く様々な状況の変化に目を向け，分析する必要があると感じている。

### 注

- 1) 現九州大学名誉教授。
- 2) 正式名称は「ドイツ語とドイツ文化研修旅行」。現在代表者は，佐賀大学吉中幸平教授。参加資格は，学部学年専攻を問わずドイツあるいはドイツ語圏に興味があり，9月に実施される選抜試験に合格した学部生あるいは大学院生。参加学生は普通「団員」と称する。
- 3) 第8回（1991年）は湾岸戦争の影響で中止を余儀なくされ，実質は過去24回。
- 4) 参加学生は注2)の選抜試験合格後，2回の合宿研修（1泊2日）への参加，毎月1回九州大学で行われる講習会への出席及び小テストで70%以上の得点が義務づけられている。
- 5) 現在，アメラング（Amerang）周辺（バイエルン州），バーリンゲン（Balingen）周辺（バーデン・ヴュルテンベルク州）の2箇所ですべて9泊10日で実施。
- 6) 事前に教員と相談しながら綿密な計画を立て，学生が独りでドイツ語圏を約6日間旅行する。
- 7) 第25回団員アンケートを次に示す。表題以外第15回団員におこなったものと内容文体とも同一。

ドイツ研修旅行アンケートに見る学生像の変遷 (1998～2008)

第 25 回ドイツ語とドイツ文化研修旅行参加団員アンケート

- プライバシーは守りますから、できるだけ正確に、また記入漏れのないようお願いします。
- 該当する項目の□に○、または[] に記入して下さい。
- によっては、次に○マークが続きます。 アンケートは全部で4枚です。

- 1) お名前 [ ]
- 2) 今年3月現在での 大 学 名 [ ]  
学部・専攻・学年 [ ]
- 3) 今回ドイツへ行く前に外国へ、□行ったことはない。  
□行ったことがある。 #国名 [ ]
- 4) あなたがドイツ語圏の国へ行ったのは、□今回初めて、  
□2回目、  
#最初に行ったのは[ ]年頃に[ ]日滞在。  
□3回以上行ったことがある。
- 5) あなたのドイツ語学習をお答え下さい。  
□大学へ入学して初めてドイツ語を学び始めた。  
#①□ドイツ語は必修科目だった。  
#②□第二あるいは第三外国語としてドイツ語を選択した。  
#③□大学の授業としてドイツ語を受講していないが、自分で勉強し始めた。  
□今の大学入学以前に学んだことがある。  
#④□今年の3月以前に今の大学でドイツ語を受講していた。  
#⑤□今年の3月以前にはドイツ語を受講していなかった。
- 6) 今回の旅行へ行く前に、□ドイツ語文法は一通り学び終えていた。  
□文法はまだ途中であった。  
□明確な文法としての授業は受講していなかった。

- 7) 今回の旅行から帰ってから、  
A□もうドイツ語は勉強していない。 #□ドイツ語は勉強したいがほかのことで忙しい。  
#□ドイツ語なんてもう嫌だ。
- B□ドイツ語の勉強を続けている。  
#□大学の授業での範囲だけを勉強している。  
#□大学の授業以外にも勉強している。 #①□町の語学学校へ通っている。  
#②□自分で勉強している。  
②を選んだ人は、何を主に使って勉強しているか、次の中から選んで下さい。(複数選択可)  
□NHK テレビ講座 □NHK ラジオ講座 □放送大学 □書籍 □DVD またはビデオ  
□CD またはカセット □その他# [ ]
- 8) 【 5)で、①②③を選択した人のお答え下さい。】  
今回の旅行へ行く前受講していた大学のドイツ語授業で、あなたが難しいと感じたのは、(複数選択可)  
ドイツ語の、  
□発音  
#その難しさの原因は、□ドイツ語本来のものだ □先生の教え方にある □あなた個人にある。  
□聞き取り  
#その難しさの原因は、□ドイツ語本来のものだ □先生の教え方にある □あなた個人にある。  
□文法  
#その難しさの原因は、□ドイツ語本来のものだ □先生の教え方にある □あなた個人にある。  
□作文(文の構成)  
#その難しさの原因は、□ドイツ語本来のものだ □先生の教え方にある □あなた個人にある。  
□単語の記憶  
#その難しさの原因は、□ドイツ語本来のものだ □先生の教え方にある □あなた個人にある。

9) 今回の旅行へ行く前、ドイツ語の文法事項であなたが難しいと感じていたのは、(複数選択可)

- 人称代名詞(ich, du, er, Sie, ihr...)
- 規則動詞(lernen, machen...)
- 現在人称変化
- 不規則動詞(sein, haben, sprechen...)
- 現在人称変化
- 名詞の性・数・格や複数形
- 冠詞類(der, ein, mein...)
- の変化
- 前置詞(auf, nach...)
- 格支配
- 形容詞の変化
- 動詞の過去人称変化
- 動詞の完了形(sein 支配, haben 支配...)
- 動詞の完了形
- 動詞の未来形
- 話法の助動詞(können, dürfen...)
- 分離動詞(kommen, abfahren)
- 再帰代名詞と再帰動詞(sich setzen...)
- 関係代名詞(副文)
- 受動形(werden+過去分詞)
- 接続法(würden, möchten...)
- 接続法

10) 今回の旅行中に、ドイツ語に関してあなたが困難を感じたり難しいと思ったことは、(複数選択可)

- 全体的にみて：□発音 □聞き取り □作文 □単語力
- 文法事項では：□人称代名詞 □規則動詞の現在人称変化 □不規則動詞の現在人称変化
- 名詞の性・数・格や複数形 □冠詞類の変化 □前置詞の格支配
- 形容詞の変化 □動詞の過去人称変化 □動詞の完了形 □動詞の未来形
- 話法の助動詞 □分離動詞 □再帰代名詞と再帰動詞 □関係代名詞(副文)
- 受動形 □接続法

11) 今回の旅行中に、あなたがあまり使わなかったり、必要を感じなかった文法事項は、(複数選択可)

- 人称代名詞 □規則動詞の現在人称変化 □不規則動詞の現在人称変化
- 名詞の性・数・格や複数形 □冠詞類の変化 □前置詞の格支配 □形容詞の変化
- 動詞の過去人称変化 □動詞の完了形 □動詞の未来形 □話法の助動詞 □分離動詞
- 再帰代名詞と再帰動詞 □関係代名詞(副文) □受動形 □接続法

12) 今回の旅行で、あなたのドイツ語力は、  
□伸びたと思う。 □前とあまり変わらない。 □やや後退した。

13) あと最低どのくらいドイツに滞在すれば、あなたのドイツ語力はあなたが納得する程度になると  
思いますか、次の中から一つ選択して下さい。  
□1ヶ月 □3ヶ月 □半年 □1年 □2年 □その他# [ ]

14) あなたにとってドイツ語力を伸ばすと思われる滞在方法に上から順番(1-3)を [ ] に記入して下さい。  
[ ] 現地で語学講習会に参加 [ ] ドイツ人家庭へのホームステイ [ ] ドイツ語圏内の旅行

15) 【 7) でBを選択した人のお答え下さい。】

- 全あなたが重点的に復習しようと思っている、あるいは復習していることは、(複数選択可)
- 全体的にみて：□発音 □聞き取り □作文 □語彙を増やす
- 文法事項では：□人称代名詞 □規則動詞の現在人称変化 □不規則動詞の現在人称変化
- 名詞の性・数・格や複数形 □冠詞類の変化 □前置詞の格支配
- 形容詞の変化 □動詞の過去人称変化 □動詞の完了形 □動詞の未来形
- 話法の助動詞 □分離動詞 □再帰代名詞と再帰動詞 □関係代名詞(副文)
- 受動形 □接続法

16) 3月16日からの自主研修旅行中に、あなたがドイツ語ネイティブの人に対して使った言語は、  
□ドイツ語のみ □英語のみ □ドイツ語中心に英語を混ぜて □英語中心にドイツ語を混ぜて  
□ドイツ語中心にジェスチャーを混ぜて □英語中心にジェスチャーを混ぜて

17) ホームステイ先の家族(大人)は、あなた(方)に対して、  
□初対面から、du / ihr で話した。  
□最初は Sie だったが、途中で du / ihr に変わった。  
□最初から最後まで Sie で話した。  
□du / ihr で話しているのか、Sie で話しているのかわからなかった。

18) ミュンヘン大学での語学講習と、あなたの大学でのドイツ語授業を比較しての感想を書いて下さい。

本当にどうもありがとうございました。 どうぞ楽しい夏休みを！

- 8) 参加学生の学部専攻別及び男女別の内訳は、個人特定に繋がる恐れがあるため明示しないが、文科系のみならず医学・薬学・工学・理学等理科系の学生も多数参加している。また両回とも男子学生数よりも女子学生数の方が多い。
- 9) 各大学での交換留学制度の他に、九州大学・福岡大学でそれぞれ別のドイツ語圏研修旅行が発足したため両大学からの参加学生数の減少がみられる。
- 10) 学生の自己申告によれば、他にカンボジア、アメリカ、カナダ、イタリア、ドイツ、オーストリア。
- 11) 第15回生の残り3%は他大学からの転入生で、前大学でドイツ語を履修していた者。
- 12) 大学名・学部名・専攻等の特定に繋がるためこれ以上の説明は省略。
- 13) 15回のホームステイ先は全員がバイエルン州の田舎アメラングであったが、25回では24名がアメラング、18名がアメラングより都会のバーリンゲンをホームステイ先とした。
- 14) 蛇足ながら、継続学習をしていない理由として「ドイツ語なんてもう嫌だ」を選択した回答は両回とも皆無であった。これは引率教員・ドイツ語教師としては教師冥利につきると言える。
- 15) 自学手段の内訳は次の通りである。(複数選択を含む)  
第15回：NHKラジオ講座28%、書籍26%、CD・カセット20%、NHKテレビ講座15%、ビデオ10%、放送大学2%  
第25回：書籍61%、NHKテレビ講座22%、CD・カセット11%、NHKラジオ講座6%  
メディア媒体がラジオからテレビへとの変遷は理解できるが、第25回生で書籍使用割合が多いのは意外である。
- 16) このアンケート結果をもとに、拙著・教科書『みんなのドイツ語』（2002年白水社発行）は生まれた。